

25:1 イスラエルはシティムにとどまっていたが、民はモアブの娘たちと淫らなことを始めた。

25:2 その娘たちが、自分たちの神々のいけにえの食事に民を招くと、民は食し、娘たちの神々を拝んだ。

25:3 こうしてイスラエルはバアル・ペオルとくびきをとともにした。すると、【主】の怒りがイスラエルに対して燃え上がった。

25:4 【主】はモーセに言われた。「この民のかしらたちをみな捕らえて、【主】の前で、白日の下にさらし者にせよ。そうすれば、【主】の燃える怒りはイスラエルから離れ去る。」

25:5 そこでモーセはイスラエルのさばき人たちに言った。「あなたがたは、それぞれ自分の配下でバアル・ペオルとくびきをとともにした者たちを殺せ。」

25:6 ちょうどそのとき、一人のイスラエル人の男がやって来た。彼は、モーセと、会見の天幕の入り口で泣いているイスラエルの全会衆の目の前で、一人のミディアン人の女を自分の兄弟たちに近づかせた。

25:7 祭司アロンの子エルアザルの子ピネハスはそれを見るや、会衆の中から立ち上がり、槍を手に取り、

25:8 そのイスラエル人の男の後を追ってテントの奥の部屋に入り、イスラエル人の男とその女の二人を、腹を刺して殺した。するとイスラエルの子らへの主の罰が終わった。

25:9 この主の罰で死んだ者は、二万四千人であった。

25:10 【主】はモーセに告げられた。

25:11 「祭司アロンの子エルアザルの子ピネハスは、イスラエルの子らに対するわたしの憤りを押しとどめた。彼がイスラエルの子らのただ中で、わたしのねたみを自分のねたみとしたからである。それでわたしは、わたしのねたみによって、イスラエルの子らを絶ち滅ぼすことはしなかった。

25:12 それゆえ、言え。『見よ、わたしは彼にわたしの平和の契約を与える。』

25:13 これは、彼とその後の彼の子孫にとって、永遠にわたる祭司職の契約となる。それは、彼が神のねたみを自分のものとし、イスラエルの子らのために宥めを行ったからである。』」

25:14 その殺されたイスラエル人の男、すなわちミディアン人の女と一緒に殺された者の名は、シメオン人の一族の長サルの子ジムリであった。

25:15 また殺されたミディアン人の女の名はツルの娘コズビであった。ツルはミディアンの父の家の諸氏族のかしらであった。

25:16 【主】はモーセに告げられた。

25:17 「ミディアン人を襲い、彼らを討て。

25:18 彼らは巧妙に仕組んだ企みによって、ペオルの事件であなたがたを襲ったからだ。ペオルの事件の主の罰の日に殺された彼らの同族の女、ミディアンの族長の娘コズビの一件だ。」

偶像は人間が作ったものなので、人間の欲望のためにあります。ですから「神々」のもとで「みだらなこと」をするのは当然とも言えます。イスラエルの男たちは欲望を満たし、さらには「神々を拝んだ」というように、偶像礼拝までしてしまったのです。

この世はまさに欲望が偶像のようです。神様の

きよい永遠の価値観が惑わされないように、くれぐれも気をつけましょう。自分の心の中に、この世の欲望を慕って不信仰を行うような思いがあると気づいたなら、ピネハスのようにそれを絶つ決断をしましょう。主は聖霊の喜びによって正しい方向へと向かわせてくださり、永遠に変わらぬ楽しみを与えてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

